

総合工学委員会 原子力安全に関する分科会（第25期・第8回） 議事要旨

1. 日時：令和5年8月24日（木）10:00～12:15
2. 場所：Zoomによるオンライン開催（主催場所：東京大学関村教授室）
3. 出席者（敬称略）：
関村委員（委員長）、大倉委員、越塚委員、柴田委員、竹田委員、野口委員、森口委員、矢川委員、山地委員、松岡委員、中島小委員会委員長
4. 議事：
 - (1) 前回及び前々回議事要旨の確認
 - ・関村委員長より、資料1-1, 1-2に基づき説明された。第6回議事要旨について、コメントが反映されていないところがあり、確認することとなった。
 - (2) 意思の表出に関連する進捗状況、及び次期への申し送り事項について
 - 1) 社会のための継続的イノベーション検討小委員会
 - ・松岡委員より、資料2-1-1, 2-1-2, 2-1-3, 2-1-4を使って説明があった。
 - ・小委員会の開催及び活動の状況について報告された。
 - ・見解を提出したが、科学的助言等対応委員会の助言により、今期は記録「社会のための継続的イノベーション」として発出することになった。第三部の査読対応を行った。
 - ・記録の概要について説明された。
 - ・次期は、他分野からの意見も取り入れるなどして、提言として発出することが考えられる。
 - ・巨大噴火だけでなく巨大地震は取り上げないのか、社会的な課題を設定して広く議論することは難しくメンバー構成から考える必要がある、「イノベーション」は既に広く使われている言葉であり例えば福島イノベーション・コースト構想といった例もある、などの意見があった。
 - 2) 原発事故による環境汚染調査に関する検討小委員会
 - ・森口委員より、資料2-2を使って説明があった。
 - ・小委員会の開催及び活動の状況について報告された。
 - ・24期に発出した報告の英語版を25期に作成し、日本学術会議から公表した。
 - ・アーカイブズを既に公表したが、記録として次期に発出することが考えられる。
 - ・次期の課題を環境汚染とするか復興まで広げるかなどが小委員会で議論された。
 - ・環境影響調査の中長期的な継承や人材育成も重要。

・本分科会の傘下の小委員会であると他分野の方をメンバーに入れやすい、などの議論があった。

3) 研究用原子炉の在り方検討小委員会

- ・中島小委員会委員長より、資料2-3-1, 2-3-2を使って説明があった。
- ・小委員会の開催及び活動の状況について報告された。
- ・次期の活動として、2018年度に発出した提言の達成度の確認、最近の動きへの対応、幅広く専門家を集めた議論、が考えられる。
- ・次期の日本学術会議の体制として、小委員会のしくみが変わる可能性がある。本分科会では小委員会において活発な活動がなされている。
- ・小委員会において、会員、連携会員以外の各学会の代表者を広く集めて議論ができることが重要である。

(3) 原子力総合シンポジウム2023の開催案について

- ・越塚副委員長より、資料3を使って開催趣旨、講演者、総合討論の案の説明があった。
- ・開催が26期に入ってから間もないと考えられるため、25期のうちに計画して承認を得ておく必要がある。
- ・講演者について意見があった。
- ・開催案は承認され、今後の微修正は委員長に一任された。

(4) その他

- ・分科会の名称を「原子力安全」から広げることも考えられる。

5. 配布資料：

資料0 【議事次第】原子力安全に関する分科会(第25期・第8回)

資料1-1 総合工学委員会原子力安全に関する分科会第25期第6回議事要旨

資料1-2 総合工学委員会原子力安全に関する分科会第25期第7回議事要旨

資料2-1-1 社会のための継続的イノベーション検討小委員会報告

資料2-1-2 原子力安全に関する分科会 記録(案)_ final version(コメント対応青字)

資料2-1-3 第三部査読委員Aへの対応

資料2-1-4 第三部査読委員Bへの対応

資料2-2 環境汚染調査小委員会から第8回分科会への報告

資料2-3-1 研究用原子炉の在り方検討小委員会引継ぎ事項

資料2-3-2 研究用原子炉の在り方検討小委員会(第6回)議事要旨改訂版

資料3 原子力総合シンポジウム 2023 開催案